

平成28年度 第1回
紀の川市総合教育会議会議録(要旨)

- 1 開催日時 平成28年10月18日(木) 午前8時55～
- 2 会場 紀の川市役所 4階 402中会議室
- 3 出席者 中村慎司・貴志康弘・佐野一男・森岡一郎・大成秀明
- 4 欠席者 橋爪奈津子
- 5 出席職員 市長公室長西川直宏・企画部長森本浩行・総務部長上山和彦・教育部長稲垣幸治・教育審議監寺本達也・教育総務課長藤井丈士・学校教育課長谷口永司・次長兼生涯学習課長金岡哲弘・次長兼生涯スポーツ課長吉川博造・主任指導主事三嶋和哉・教育監妻鹿慎郎・教育総務課主幹田村浩美・教育総務課神田友紀
- 6 傍聴者 なし
- 7 協議事項 (1) 発達障害のこどもの指導について
(2) 学校図書館司書について
(3) 紀の川市教育課程検証委員会の中間報告について
- 8 議事の要旨
 - 開会
 - 市長あいさつ
 - 協議事項

(1) 発達障害のこどもの指導について

市長

「発達障害のこどもの指導について」は、委員からの提案と聞いていますので内容について委員より説明願います。

委員

発達障害という観点から、お願いをしたいと思います。

学校では、発達障害的な生徒への対処は、学校が特別な配慮をして、その生徒に気配り・心配りが、また生徒同士でもできていたため、障害をもっていても伸びていくと実感した。紀の川市教育の素晴らしいところである。

しかし、社会体育、特にスポーツ少年団等の場では、指導者が発達障害に対して深く理解をしているかと考えたときに、研修会等を受ける機会がなかったと思われる。

発達障害的な児童・生徒に対する指導のあり方について、その子たちに関わっている指導者に対して、紀の川市の指導者は、発達障害の子どもたちに十分に対応・指導できる体制を構築していけないだろうかという思いが致しました。なんとか教育という場で関わりのある人たちについては、力をつけて、指導者の資質の向上を

図っていただきたい。

生涯スポーツ課長

スポーツ少年団の代表者にアンケートを実施。その中で、発達障害を知っているという回答をほとんどの指導者から得たが、ほとんどが発達障害の指導に関して、講習会を受講したことがないという回答であった。

その他、発達障害の把握の方法、指導方法等について回答を得ている。

教育長

学校では研修会を開催し、接し方も全員で意思統一をして取組むなどしています。

スポーツ少年団の指導者においても、学校の先生方と同じように発達障害の事を理解して、子どもたちへの接し方をしっかり身に付けていただければ、その子がスポーツ少年団の中でずっと続けられるし、また成長していけると思われます。

よく誉めること、ADHDの事だけで言えば、1つの才能に優れている部分もあるので、それを見つけてやる。順序だてた行動ができるように促す。その子がどんなことをするのか予測できれば不安の軽減になる。またどういった不注意で過ちをする事が多いのかを見つけ教え、自覚させることが大切。そのような研修をしていただければ大変ありがたい。

委員

教育長が言われたように、その子たちの行動を正しく理解する、その子たちの価値観を理解するということがあれば、その子たちも一緒に、多少遅れてでも最後までやり遂げることができる。こういったことができないかと思います。

市長

教育委員会なり学校の先生と、また指導者と十分相談して理解を深め、そういう指導をしてもらいたい。

委員

スポーツ少年団の指導者に発達障害という大変難しいことを勉強しなさいと願う以上は、願うするばかりでなく、それに対して応える必要があります。発達障害といわれる評価をされる児童生徒が、なんとかみんなと一緒にスポーツを楽しむ・親しむという環境づくりができないかと思うわけです。

市長

保護者の理解や認識がなくては、指導者だけで、または学校だけではできないというところもあると思います。

教育長

当初は、やはり自分の子が発達障害というのは、なかなか認めたくないというのが強くて。

市長

傍で見ている、支援学校なり、そういう学校に行った方が子どものためになる

のにも思っても、それでもみんなと同じ学校に行かせたいという父兄がいるという相談を受けたことがあります。

委員

障害を持っていても普通のクラスに入れて、一緒に学習させますからね。周りが理解しているというのが、中学校を訪問したときに、いいなと思いました。学校の先生方が配慮して、この子たち（発達障害）には仲間を付けて、その子たち（発達障害）が色々な質問をしたときに、ちゃんとアドバイスをして、非常にその子たちが自然に溶け込んでいました。こういう環境づくりが、非常に大事だと思います。

スポーツというのは競い合いですから、ついていけない子はどうしても置いていかれてしまいます。

私も反省するのは、20年ほど前に、今思い出せば、その子は今でいう発達障害だったのでしょね。理解があれば、その子にもっと違った指導ができたのではないかという反省もあるわけです。

そういったことを踏まえて、今関わっている子どもたちには、ある方から「発達障害は、何回も何回も繰り返しですよ。こういうことをやらないと、ついてこれませんよ。」と言われましたので、こちらも我慢するときは我慢しているのですが、これを若い指導者たちができるかどうかです。ちょっと外してしまうと、その子は恐らくスポーツをやらなくなるでしょう。できなくなるでしょうね。うまくなるかならないかではなく、スポーツを楽しむということが、これからの社会において大切なことだと思うのです。だから、余計に、できなくても一緒に楽しむ、喜びを分かち合うということができたらいいなと思っています。

市長

他に、ご意見はございませんか

教育長

8月に日本体育大学に子どもたちを連れて行きました。その中で、対応してくれた先生で、特別支援学校設置担当の方がおられました。今ちょうど、うちと日本体育大学が連携協力をしていますので、そこから指導者の方に来ていただいて、スポーツ少年団の指導者の方の研修会を持たせてもらうというのはどうでしょうか。

委員

ぜひ、そういう方向で検討していただければと思います。

市長

この問題は、なかなか即解決というわけにはいかないと思いますが、ひとりのそういう発達障害の子どもが、みんなと楽しくスポーツなり勉強ができるように、教育委員をはじめ、指導者並びに学校関係者には基礎の「き」から、がんばっていただきたい。

(2) 学校図書館司書について

委員

学校図書館司書の設置につきましては、平成27年度の第1回総合教育会議が開催された際に、教育委員から子どもたちの読書意欲を高めるために、小学校や中学校に配置していただきたいと意見が出され、一度検討することになっていましたが、今年度はまだ実現できていないようです。学校図書館の運営充実のためにも、ぜひ私も必要だと思いますし、その後どのような状況になっているのか説明をお願いします。

学校教育課長

学校司書を配置することで、学校図書環境の整備と開かれた学校図書館としての運営が可能となるため、児童生徒が本にふれる機会の増、児童生徒の読書力の向上、確かな学力と豊かな人間性を育てることができるとして、平成28年度から学校司書の配置を予算化するため申請したところ、学校司書を配置することが児童生徒の読解力・学力の向上につながるものかを判断する現状分析が不十分であり、判断できないとして採択を保留されました。

そこで、平成28年度の学校教育の基本方針の「確かな学力をつける」手段として、「学校図書館利活用の充実」を位置づけ、市内小中学校の学校図書館を市立図書館司書と共に訪問し、状況把握を行うと共に、現段階でできる環境整備のための助言を行ったり、他の先進学校での取組を紹介しています。

また、学校司書を設置している学校の図書館利用頻度と全国学力・学習状況調査による学力が向上した事例を分析研究しており、更に、学力向上研究指定校といたしまして紀の川市立川原小学校を指定し、「図書館教育を通して思考・判断・表現力を高める」をテーマとして、図書館を学習情報センターとして機能させ、児童の学力向上を目指して取組んでおります。

これらの成果を踏まえ、児童生徒の読解力・学力向上のためには学校司書の配置が必要であることを説明いたしまして、平成29年度当初予算に予算要求できることになりました。

これが、現在の学校司書設置に向けた取組みの状況です。

委員

取り組んでくれている状況をよく理解できました。和歌山県下での学校図書館司書の設置状況は？

学校教育課長

今年の6月1日現在の状況ですが、合計で和歌山県下14市町で34名を111校に配置しています。

市長

平均約3割ですか。その学校に司書があつて、他の学校へは指導には行かないの

ですか。その学校に張り付きですか。

学校教育課長

配置状況につきましては、市、町によってそれぞれ指定校的に1名を配置している町もありますし、すべての小中学校に対して巡回して、固定せずに何校かを担当する司書が回って指導しているという形態の市、町もございます。

委員

県下30市町村で、ほぼ半分の14市町で学校図書館司書が配置されているようですね。学校訪問に行かせていただき、先生方が児童・生徒に本を読ませたいという願いで、色々と読書指導というのを取り組んでくれていますが、色々と本の紹介など学習との兼ね合いで、図書館司書がいてくれたらなというのが現場の切実な願いだと、いつも聞かせてもらっています。

一度にはいかないけれども、徐々に拠点校くらいから配置していただいて、その活用状況なども紀の川市全体の推進のためにも、私もぜひ必要かなと思いますので、設置をよろしくお願い致します。

学校教育課長

平成29年度に予算要求ができるということで、学校の図書館司書を十分、学校の先生、司書教諭とも連携して、子どもたちが図書館にたくさん訪れて、本が好きになるように取り組んでいただく。それが最終的には読書力・読解力を身に付けて、全国学力調査でも応用問題でも、理解をより深めて高めて点数を上げていただくというふうに取り組んでいきたいと思っております。

教育長

学校においても、図書館を活用するというのが本年度の方針で、どこともがんばってくれています。地域共育コミュニティの方も、お昼休みに図書館に入っていたりしながら、できるだけ子どもたちが活用しやすい図書館ということで取り組んでおりますが、担任の先生が図書館で授業を行ったり、そのあたりも広げていかなければならない。今、図書館担当の先生というのは、担任を持ちながらやっていますので、できたら図書館司書を置いていただいて、きめの細かい活用計画を立てて取り組めば、紀の川市の子どもたちの力も上がるのではないかと考えております。ぜひ、よろしくお願い致します。

市長

図書館のことは司書に任せておいたらよいというのではなしに、子どもたちは担任の言うことをいちばんよく聞くのではないかと思いますので、そのあたりの連携がまさに大事なのではないかと思います。子どもたちが本に馴染むことになると、今、紀の川市にある学校図書館が、このままでよいのかという心配もしています。学校の図書の冊数はどうなっていますか。

学校教育課長

学校における図書の充足率につきましては、ほとんどの学校が充足率を達しているのですが、一部の学校では新築した関係上、古い本を処分したという学校もあつたりして、充足率に達していない学校もございます。せっかく図書館司書を置いても、本が足りないという状況では本に親しむ機会が減少することになりますので、充実させていきたいと思っております。

市長

教育委員会が前向きに29年度からがんばっていただくということで。

(3) 紀の川市教育課程検証委員会の中間報告について

【資料に基づき事務局から説明】

- ・2学期制の成果と課題及び今後のあり方
- ・長期休業期間の短縮の成果と課題及び今後のあり方

必要があれば学校管理規則の改正などを行うと共に、学期制が変わることとなった場合、移行の準備委員会を立ち上げ、スムーズな移行ができるよう対策をしていくという事を共通理解しました。

(4) その他（教育全般に関する意見交換）

委員

平成27年度末をもって、小中学校ともに構造部分の耐震化率が100%となり、児童生徒の安全・安心が保たれました。また、平成28年度では、7校に小学校の普通教室・音楽室に空調機を設置していただき、運動会の練習後の授業や給食時でも快適に過ごすことができるので、児童も落ち着きが出てきたと現場より聞いています。来年度も残り6校の小学校にも設置いただけるので、学力向上にも期待できると考えています。今後とも教育環境の充実について、よろしくお願い致します。

また、生涯学習関係では、粉河ふるさとセンター及び貴志川生涯学習センターの大規模な改修工事を施工していただき、今後もより一層、各種団体の活動やイベント等の取り組みに活用できると思っております。

生涯スポーツ関係では、日本体育大学と「体育・スポーツ振興に関する協定書」が締結することができ、スポーツの振興に幅広い対応が可能となりました。

今後とも、紀の川市の教育にご尽力をお願い致します。

市長

教育委員会も教育委員さんたちも熱心に、教育優先ということの中で、まず学校の耐震化、老朽化のものは建て替えていく中で、教育委員会から荒川中学校の建て替え等を検討しているという提案がございました。29年度に向けてこの計画を進めてまいりたいと思っております。

河南給食センターが打田・桃山・貴志川の給食センターとしてできまして、前々

からの旧那賀町・粉河町の給食センターを一つに統一して、河北給食センターという
ことで進めてまいりたいと思っております。自校方式がよいというご意見もあつ
たわけですが、河南においても、そう問題なく今日まで進めている中で、河北も一
つのセンターでやっていけたらと思っておりますので、よろしく申し上げます。

環境の面では、本当の通学路というか、市道に歩道がないとか、色々と危険な箇
所もまだまだあるわけで、これから対策をしていく大きな課題であると思ってお
ります。

これからのことも申し上げて、私から報告をさせていただきます。

○ 閉会